

# 17 マルチ搬送(横引)工法

水路

NETIS登録番号:TH-020011-V(旧番号)

高架下の横断、仮設道路の確保ができない場所、狭隘な住宅の密集地など、クレーン等重機械によるコンクリート二次製品の搬送が困難な場所に据付ける場合には、マルチ搬送(横引)工法&マルチレベル工法併用による据付工を実施することにより、安全・確実・迅速かつ高精度な施工ができ、それに伴い工期の短縮・大幅なコスト削減ができます。

## マルチ搬送(横引)工法の特長

### 1 シンプル&経済的

シンプルな搬送機、基礎コンクリートの打設時に走行ガイドを埋め込むだけなので、経済性に優れています。

### 2 広い適応性

搬送機の幅、長さ、耐荷重を変えることが可能で、あらゆる形状・荷重の二次製品の搬送にも適応可能です。

### 3 曲線も可能

走行ガイドに沿って走行することにより、曲線部の走行も可能です。(最小半径R9m程度)

### 4 素早く高精度

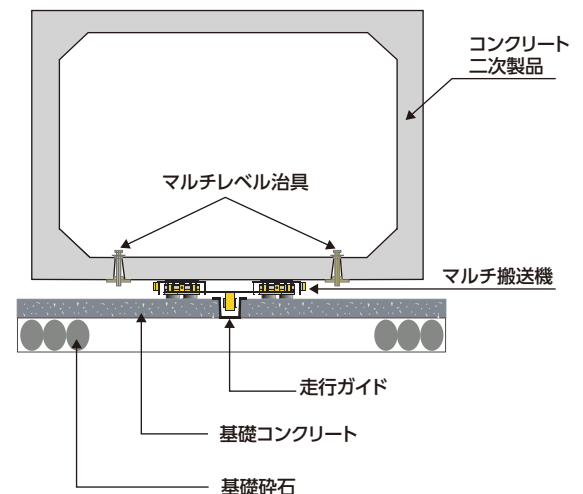
マルチレベル工法と併用することにより、搬送先で据付する際も人力で素早く高精度な据付が可能です。

## 概要

平面図



断面図



## マルチ搬送(横引)工法による据付施工例



高架下のボックスカルバート搬送(横引)据付施工



高架下の大型フリューム搬送(横引)据付施工



狭隘かつ落差工でのボックスカルバート搬送(横引)据付施工



高架下のL型水路ブロック搬送(横引)据付施工



覆工版下でのボックスカルバート搬送(横引)据付施工

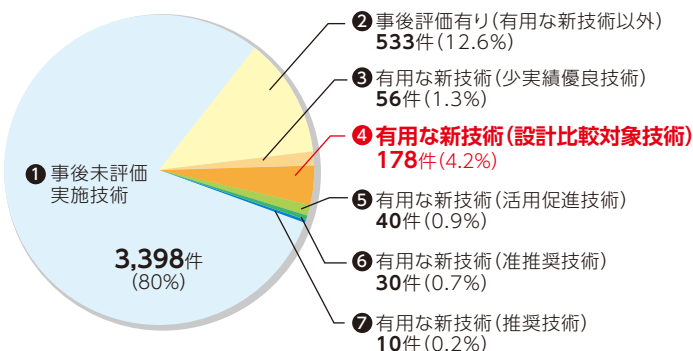
### 困難な場所でも搬送・据付可能

- 高架下、架空線などの上空制限がある場合
- 仮設土留材(腹起・切梁等)が据付に支障する場合
- クレーンスペースが全線で確保できない場合
- 覆工版の下で交通に支障を与えず据付を行いたい場合
- クレーンの段取り替えにより施工効率が悪い場合
- 据付のための仮設道路が必要な場合

マルチレベル工法・マルチ搬送(横引)工法( NETIS登録番号 TH-020011-V )は、「設計比較対象技術」として評価を得ております。

### 国土交通省「NETIS」登録新技術の分類

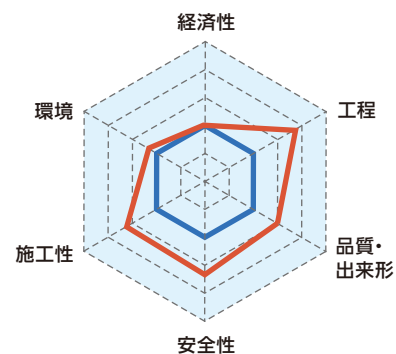
※件数は2012年10月現在



#### 「設計比較対象技術」とは

活用効果評価において、技術の優位性が高く安定性が確認されている技術。設計業務において設計の比較対象となる技術です。

### マルチレベル工法の事後評価



— 従来技術(従来工法)  
— 新技術(マルチレベル工法)

### 総評

従来技術に比べて活用の効果が優れている。また、活用の条件の違いに対する評価の安定性を有し、多くの現場で良い評価を得ている。